

五惡の淨化

五濁衆生は諸罪惡無量なり。五惡を以て一切の惡を攝す。人倫の道德上此五惡は最も惡の大なるもの、此五惡の業の根ざし深く罪の勢力繁榮して其罪の益々發達するに隨て現在に罰の厄報を受けて而して其己が業神識に對識したる結果は未來地獄の火に焚燒されて苦を受くるを果報と云ふ。一切世間の人民悉く各自業自得の結果自ら造て自ら苦を受く。此世の衆生は動物欲の方より見れば焰々たる大火の中に流行する惡の毒瓦斯に籠められて正見は昏醉し朦冥抵突にして各々殺毒を懷きて互に相尅す。斯の如きの滔々たる社會の中に毒素に感じて悉く良心昏醉し善心滅亡せる比々皆然り。されば佛陀此世に出給ひて教ふに彌陀の光明を以てす。衆生内薰の佛性あり。彌陀の光明に適ふ時は五惡五燒の火を消して精神的に清涼なり。實に念佛者は火中の蓮なり。佛曰く「汝能く此世に於て端心正意衆惡を作さざるは甚だ至徳とす。

十方世界最も倫匹なし。其故は他の諸佛國土の天人の類は自然に善を作して大に惡を爲さず、開化すべきこと易し。理想境と現實とは大に同じからず。理想世界は自然に善を作して現實の世界は然らず。されば我世に於て作佛して五惡（因業）五痛（惡業現世苦罰）五燒（未來地獄火中苦）の中に處して衆生を教化すること最も劇苦なりとす。群生を教化して五惡を捨てしめ五痛を去らしめ五燒を離れしめ其意を降伏して五善を持して其福德、度世、長壽、平和の道を獲せしむ」と。滔々たる衆惡の中に佛陀の教によりて彌陀の光明に靈は清められ復活して聖生命となるものは實に是奇特なり。火中の蓮と云ふべきのみ。此泥中の蓮、されば斯人を擧げて人中の白蓮華と稱し玉ふ其れ宜ならずや。

第一の惡

殘害殺戮の惡。不仁不順の罪德。一切生物が最も愛する者は生命なり。最貴重とするは命なり。最も愛重する生命を保護して他の苦を抜き安きと與ふるは即ち仁慈な

り。殺生は不仁の最なり。惡の最重なり。佛教道德律の中不殺生戒を第一とす。人類精神に他の動物と異なる處人には理性あり。理性は己を以て他人を恕ることが出来る。畜類は理性なきが故に己が苦を以て他も矢張り苦なりと推察することができぬ。故に畜類は唯本能的に己が苦痛は感すべきも道理的に他の苦を推察することは出来ぬ。故に畜類が例へば猫が鼠を食ひたりとも敢て罪惡と云ふべからず。然れば彼等は本能的に唯己が痛苦を感すべきも他の苦を察する理性なきなり。殺生の惡たるは第一の徳たる仁を缺きたる處なればなり。人類相互に社交的に共同相扶け合ふて生命を保護し福祉を増し仁を以て相互に愛し合ふ所に愛ありて初めて人生の眞價あるなり。人の愛は生命である。此愛が人類已下の動物は唯己が肉のみを愛して人類の如き理性的の愛仁怒同情と云ふ高等なる愛なきなり。然るに人も動物なり。眞理の光明に接せず動物性のみを放縱にせんか、他の動物と異にして智慧あり、其智慧を惡用して有ゆる罪惡を恣に爲すに至らば實に奸黠なる野獸にして實に濟度し難き生物となる。然れども

人には理性また靈性の具はるあり之を開く時は仁愛の心の花はいと麗はしく且つ香は
 し。されどまた人は靈性即ち寂知あると共に本能に肉體に依る煩悶の罪惡性も具はつ
 て居る。惡の性を恣にする時は實に黯智の虎狼である。此第一の惡性を經に「世
 間の人民衆の惡を爲さんと欲して比々皆然り。強者は弱きを伏し轉た相尅賊し殘害
 殺戮して迭に相呑噬す。善を修むるの眞理なるを自覺せず惡逆無道なり」と。現在人
 類の一面を觀れば實に示し玉ふ如し。彼の歐洲の全面に亘りて彼我の數十萬の壯丁が
 轉尅賊し日々殺戮を事とし多くの人命を傷むるものを賞し生を殺すを偉とす。現代
 の鬭争は是れ千載の一遇たりと雖も人類精神上の競争相殺の點に至つては何時の時代
 と雖も異なることなし。現在の惡逆無道の業に報ひて或は現に王法の牢獄に投せられ闇
 懺たる縱令獄囚に入らざるも殺罪の積聚する處自己の腦裡に鬱々たる悶擾々たり。世
 には殺人の業感自ら安する能はず自殺を企つるあり。

闇王父王を殺して自己の逆惡天地に充塞するを深く今後世に苦を受くることを怖れ

王爵々として安からず、煩悶懊惱して止まず。後佛陀世尊の教化を被り精神的に獄火に焼かるゝ苦惱の状態より清凉の蓮花を開かしめたり。壽終りて後世に尤だ深く尤だ劇し。其幽冥に入て生を轉じ魂神精識が焦熱の火に焦され叫喚の獄に號泣すること免れじ。大暴風市中の大火の如く一般の人類の精神は悉く逆惡の火に功德の寶を燒き可惜人生を火宅の中に投じて苦より苦に入らざるは無し。

唯世尊の教に隨ひ彌陀の光明のみ能く此火を救ひ玉ふ。即ち極重惡人命終時、地獄衆火一時俱至も彌陀の光明威力を聞くや無量の罪消えて地獄の猛火忽ちに化して清凉の風と爲つて諸天花を雨すと。彌陀の光明に依て罪惡の火中より出でて清凉の心と爲り白蓮心花開きて即ち彌陀に依て靈に活きたる時なり。

彌陀の大慈悲に愛化せらるゝ時に我人が殘忍なる心も變じて分に慈化す。靈に活きる時仁慈以て己を恕して佗を哀れみ同情心を以て、釋尊過去世に己が身肉を以て鳩の命に替え身を投じて飢たる虎を助けし如くす。諸の殺生の中に最も重き者は自己の

靈性を殺すにあり。然るに彌陀を念じて靈に活くる時はまた延て一切の靈を活すに至る。是れ第一の徳なり。已に靈に活されば一心に如來の聖意を己が意として意を制し身を端し行を正せば超勝獨妙諸善を爲して衆惡を爲ざるに至る。竟には無上の光明と福德たる涅槃常樂に入ることを得。之れを第一の善とす。

己を恕りて他を憐れみ現世に心安穩に衆生と共に慈悲の心を以て相向ひ佛の眼を以て相看合ふて手を携へて共に現に無比の樂を受け後に淨土に生じて慈悲喜捨の徳を全ふす是れ一大善とす。

第二 義

二惡とは倫盜等の凡の義を傷ふ處の惡。人は正義を以て己が分を守り義務を盡すべく、他の財産及名譽幸福等を損害せざるは人の正義なり。然るを世の無理に瞋く人慾に己が資生産業等の努力を怠みて唯己が身の逸樂を貪る。之を經に「世間の人民父子兄弟室家夫婦の間にも義理なく法度に順はず身の勤を勉めず奢淫驕縱にして各肉の

快樂のみを貪求し放浪生活の習慣 自恣にし互に相欺惑し合ひ巧言金色にして其實は佞諂不忠にして言を巧みにし諛ひ媚び賢人を嫉み善良なるを誘りて冤枉に陥れて、分を守り位を正くせず、主上明ならずして臣を任用し臣下はわがまゝにて機偽多端位に在つて正しからざるなり。其に欺かれ妄りに忠良を損じて天心に當はず、臣は其君を欺き君は其臣を欺き子は其父を欺き兄弟夫婦中外の知識互に欺 誑す各胸に三毒を懷きて自ら己を厚せんと欲し多く有んことを欲念す。尊卑上下心俱に同じく然り。己か分を守らざる爲に、家を破り身を亡ぼし、前後を顧みず、禍を親族にまで及ぼすあり。或は親族知己の間も愚民野人の常として何か事を發しては互に利害の争ひから各忿恨を結び怨を受く。富者は慳惜して世の爲に施さず黄金に跪き錢財の奴隸となる。或は醜賄に人格を害ふ。己が暴利を貪ぶる爲に米穀等の買占を爲して細民を苦しめ細民は暴動を發して亂を爲す。或は高位顯官に在つて醜賄の爲に體刑を受け王公の高きに在て奢華驕傲の爲に下民に塗炭の苦を與ふ。或は利害の爲に毒殺

する如き、斯の如く金財の爲に或は肉慾を食ぼる爲に義理を妄りにし常に盗心を懷き或は賭博を嗜み金錢の爲には命を鴻毛より輕しとし義の爲には一步をも損となす。實に卑劣なる情志斯の如きの惡風滔々として風靡せざるはなし。斯の如きの世に立つて獨り正義の旗を立て正々堂々として若くは社會に若くは家庭に正義の光を與へて覺醒せしむるものは是世尊の教なり。

奇なる哉、世尊の教に隨ひ如來の光明に觸る者悉く個人若くは社會正義に覺醒する時は正義の光互ひに譲り與へ或は金錢を寄與し米穀を喜捨して自ら薄うして他に厚うす。同朋兄弟孰か親疎あらん。金錢は天下の寶にして個物に非ず。如來は天地萬物を準備して衆生に讓與す。

我等が一日の天に受る資財幾干ぞや。我等は最善の努力を以て義務を竭さん。我が今衣食住是如來の賜。何等是我物ぞ。然れども自己の分を守り他を侵さず天に盡すべき義務感情を以て天下の人民に致さん。

世は財物の欲の爲に上下滔々として濁流に陥りたり。此中に於て彌陀の正義の光に覺醒し靈化せられたる者あらば世の光明なり。實に是奇特なる者なり。現在には財色の奴隸とならず正義に仕へて千萬人と雖も我往かんとの眞勇氣あり。日々に彌陀の聖力を力として日々に不義の惡魔と健闘し地上に道德の世界を建設せんとし正々堂々とひ世は悉く不義の大火に焚盡さるとも我は如來の正義の聖意を體して一心に意を制し身を端し行を正して諸善を作して衆惡を作さず。獨り超然として眞善美の理想界に往進す

如來の正義より出づる正眞のみ眞の正義なり。

三、禮節の五倫

人には禮節あり君臣父子兄弟夫婦朋友等の間に於て行ふべき倫理なり五倫の中、最中心と爲るは夫婦の禮なり。夫婦の倫に於て正しければ佗は必ず道倫あらむ。人は男女の中を正しくすべし。性欲の御し難き、第三の惡は男女の間に起る惡を誠しむ。

經に其三惡とは世間人民男女相寄て寄生し共に天地の間に居り榮養を以て自己を保存
 するも生命限あり。有機的の生命は一定の限を経なば必ず死に歸す。生殖欲ありて種
 族を遺す。此性欲は上賢明長者より下貧窮賤劣愚夫あり。又中等の人あれども常に
 邪惡な心を懷きて唯嫉妬を念うて煩惱の炎が胸中に滿ち充ち愛欲の念に驅られて坐起
 安からず色を貪はり唐らに情に飽くことなく妖色を眇來して眩惑を外の態度に現はし
 自妻をば厭忌して私妄に入出し爲に家財を費損し家庭に風波絶えず、嫉忌修羅場を
 演ず。三軍を叱咤する豪傑も細腰の爲には脆くも捕はる。廟堂に在る威風堂々たる宰
 官も蛾眉紅顏の前には奴隸と爲る。修得したる智識も性慾の爲には野獸性を暴露す
 此の夫婦男女の道理が五倫中に最も神聖を保ち難きものである。故に若し之を縦に
 し妻子を恐迫脅かしたる因果として現在にも或は家財を壞りて末路の憐むべきあり
 或は爲に家庭の紊亂は惡影響を子孫に及ぼし、または過度の房事に命を促め體を弱く
 し、精神は種々苦悶憂鬱に包まれ色慾の餓鬼と爲り魔となる。風教上にも衛生上にも

最も男女間の神聖を要とす。姪姪の習慣性が業識に薰發し其精識の歸する處、或は色魔の餓鬼道に墮ち又は邪姪の地獄火に焼かれる。世の衆生男女を通して此色慾煩惱の爲に胸を焦がし精神は炎々たる猛火の中に情熱の燃えたるあり。佛陀は可惜人生の精神精力をして情慾の煩惱の爲に焼かるるが如きは實に可哀と。

彌陀の神聖なる光明に人々本具の靈性を發揮して萬德圓滿靈的美人の彌陀に愛慕を起す。靈の愛は如來を慕ふ。如來に依て結ばれたる婚は眞に永遠に靈に結ばるゝなり此に心身のすべても結び、夫婦と又父子君臣の間も全く如來の眞理を體したる倫理にして眞の倫道となる。

佛陀は或婚禮の席に請せられ新婚者の爲に説王し事あり。佛は不邪姪を以て戒め給ふ。

尙進んで神聖なる彌陀の光明に靈化せらる。如來は無上の愛を以て我等を愛し玉ふ無比の麗はしき相好は衆生を愛し給ふ愛の表はれ、如來の慈愛に愛化せらるる時一心

に佛を見んと欲して身命を惜まざる心は彌陀の容るる處となりて神聖なる威嚴極りなき大慈悲の彌陀に愛化せらるる我を知るとき此靈の愛の光を以て家庭を照さば、一團樂宛然として夫婦親子兄弟は實に地上の樂園を如來の慈光浴及せる家庭に實現す。然ばとて靈は如來の慈愛の光に満さるるとも肉のある限りはまだ家庭に黒き惡魔の蔭なきに非ず。されども一心稱名の聲に彌陀光明が射來る時は魔の蔭もいつしか去りぬ、現に家庭の樂園に咲く花はやがて彌陀の淨土に諸の上善人と俱會一處の果を結び、觀音勢至文珠普賢の諸の菩薩衆と共に一處に會することは、同じく彌陀の聖種の名號を正因として彌陀の光明に照され育まれたる一蓮に結びたる果に外ならず。

第四、信

信。處世上人類は社交的にも經濟的にも相互の間を繋ぎて離さざるものは信である。若し私慾の爲めに權謀を用い詐偽をし虚構する如きを誠む。精神の他人に發表するものは言語である。社會相互の間を疏通し相照應するものは詞である。内心を表現する

言語は最も慎むべきものである。公衆の信を失ひ又は他人の親密を害ひ怨恨を買ひ疑惑を招き敵愾心を起さしむ。種々の災を惹起するは言語である。言語の尤も惡と過失となるものは妄語と綺語と惡口と兩舌とである。人他人若くは公衆の爲に信用を失ふものは妄語が第一である。(詐僞虛構似僞物等) 人の人格の野卑劣等を表はすものは巧言令色等の諂媚、又他を嘲弄する綺語である。烈火を以て物を燒き利刀を以て筋肉を割くが如くに相手をして敵愾心を惹起せしむるものは惡言と罵詈と誹謗とである。他の兩者の中間を毀し紊亂破壊中傷するものは兩舌である。

言語は其性格及び内心を發表する最も慎しむべきものである。口の四種の過失を誡めて經に「世間の聞き人等、善を修めんとの念を蓄へず轉相咬合ふて共に衆の惡を爲す、他人間の中を中傷する兩舌、己か名利を貪る妄語、または綺語譏賊鬭亂して善人を憎み嫉み賢明を攻撃し、傍に於て自ら快しとす。二親に孝順なく師長を輕慢し、朋友に信無くして誠實なく自ら尊大を構へて己、偉なりと誦ひ、横に威勢を振舞ひ人

を侵易し自ら自己の眞價を覺らず惡を爲して恥づることなく己が强健を頼みて人の敬を欲す。今現在の生命を天地神明日月等の恩恵なりと知らず、故に天道を畏れず、己が選舉人の前には哀願して媚諂ひ、若し當選の上には自ら高うし、名譽の奴隸となり逐鹿の修羅となり其の卑劣情操と劣等なる理想實に憐むべし。縱令一時は飛ぶ鳥も落す勢力も眞實内に道德の缺乏すれば竟に公衆の爲めに非難を受け天の憎惡する處となり末路の憐れむべきは是内心實なき花なればなり。凭の如きの精識の歸する處、修羅場ならざれば地獄の底に沈むべきのみ。

凡愚の愚なる上下貧富の論なく智愚ともに滔々として心は此邪氣に感染せざるなし或は計れ或は惱み自ら起つの勇氣なきに至る。

若釋尊の教に依り彌陀の神聖と正義の光を被むる時は自己は是佛子としての人格を有するが故に妄語を以て人を欺くは是れ先づ自己を欺くなり。己が神聖なる如來の光に照らさるる正見を欺く可からず、是自ら妄語綺語する能はざる所以なり。如來の慈

悲に満さるる時は怨親に拘はらず惡口罵詈と兩舌を以て中間を傷ふ如き事を致さぬ。
されば社交上にも經濟上にも他人の信を得又愛敬を受く。

然れども我等は却て惡を好む凡夫なれば惡口や兩舌は好む處妄語綺語は自ら發現すべき内の性を有て居る。唯彌陀の靈に活かさるる靈性のみにありて我等は如來の光明中に凡ては諸上善人なれば慈悲心を以て相互に交はり佛眼を以て相看過て、理想の淨土に社交を爲し後には永遠に其實現に向つて向上せんことを。是第四の善とし、人中の希有妙好人なり奇特の人なり。

第五。 智

是非の心は智の端と。本來人には理性あり、善惡邪正是非分別の智慧あり、是實行の智である。人には冷靜に照す時は己が行爲是非を分別するの智慧あり、けれども物に迷ふ時は眩惑せられて正しく是非を照見することが出來ぬ。此の物に迷ふて常を失ふ心を生理的に具體的に表せば即ち飲酒家である。人酩酊する時は忽ちに平生の心を失

ふて言語動作に至るまで變調子となる。甚しきは常倫を紊すことあり。酩酊して常の心を失ふ如く人は其愛好する處に酔ふ時は甚正しきを得ず。愛しても其惡を見憎みても其の好きを見るは賢者の眼である。概して凡愚は愛して其子の惡しきを知ること無く其苗の稼なるを知ること無し。

人若婦人に迷へば姪婦を賢婦と謂ひ毒婦も節婦と見ゆ。或は其愛玩する嗜好物の如き、自ら愛する物は粗製も却て雅致ありと謂ふ如く、一切に魔醉する時は正しきを得ず佛陀が其害を誡めて第五の惡とす。されば經に、

「世間の人民徒倚懈怠して修身は勿論産業をも治めず、爲めに家族は飢と寒とに食なく衣なく困苦す。父母之に説諭を加へば忽ちに憤怒し違戾返逆す譬へば怨家の如く、寧ろ子無きに如かずと。取與節なしとて借りて返償することなく恩に報いなく、貧窮困乏して經世の道無きを意に介せず、放恣遊蕩唯己が口腹の樂を貴み酒に耽り美味を嗜み飲食度なく肆心放蕩常識を逸し魯扈抵突して人情を識らず義なく禮なく自己に

對する反省なく自ら用て當然なりとして諫曉すべくもあらず、經濟上に於て親族及び
佗人に迷惑を懸けることを敢て意とせず、彼が眼には父母もなければ師友の義もなし
心常に惡を念じ口常に惡を言ひ自ら常に惡を行ひ曾て一善もなし。
人に道德と倫理上尤も第一なる正見の眼なく諸佛賢聖の經法を信せず道を行じて度
世を得べきを信せず、神識更に生ずることを信せず、世人愚痴朦朧にして、生の從來
せる處、死して趣向する庭を知らず、不仁不順にして天地に逆戻し唯其等の僥倖のみ
を希望して長生を求むれども如何せん會す死に至るべし。慈心を以て教悔して其をし
て善心に復活させんとし生死善惡因果の理を示せどもすべて之を信せず苦心に之を誨
ゆれども其の人に益なし。終身心眼開けずして命終る時悔ゆともまた及ばず。
天地の間に善惡の因果苦樂の六道の道は分明である。然れども愚夫は恢廓浩浩茫々
たり善惡の業は必ず己に報い來りて苦樂の果を受く。身自ら之を受けて誰も代る者な
し、理の自然なる其所行に應じて殃咎は未來に命を追ふて縱捨することは出來ぬ

一切の衆生無始已來無明の酒に酔ひ肉我は酩酊して醒むることなく、斯る惡人は惡を行じて苦より苦に入り冥より冥に入り、人生闇黒の中に諸の惡業を結びて現在にも己が罪に責められ心意に平和と安寧無く苦しみ惱みて命終れば三塗の苦惱甚だ堪え難し。大火に焚燒さる如し。人能く中に於て一心に意を制し身を端し念を正し言行相副ひ所作至誠善をなして惡をなさざれ。

佛陀の教に依り彌陀の智慧光に復活せられし衆生のみ如來に清められ靈化せられて善人と爲る。經に善人は善を作して樂より樂に入り明より明に入る。光明中に靈活する人を善人とす。如來の聖意を承し行爲を善を爲すと、如來の中に活ける心意は法悦に充たされて心廣く體肝かに、靈的氣分常に快く現在より永遠の淨土光 明の生活なれば、明より明に日々に樂しく日暮してまた永遠常樂に入る。

世は悉く五惡の爲めに滔々と渦卷せられ闇黒の中に墮落せざるなし。其果報として或は王法の牢獄又は精神の囚人となりて不靈なる日暮しをなす。

世尊此の五惡五痛五燒の世に出で玉ふ所以、若し世尊出世なくば衆生悉く但衆惡を作して善本を修せず皆悉く惡趣に墮落して獄火に燒かる。苦毒無量。自相焦燃せらる。

此五惡五痛の世は何人も免れざる處故に佛陀の出世の要あり。若し衆生悉く無爲自然に正善にして明樂ならば佛法要なきなり。又衆生本佛性あり、佛に成り得る性有るが故に、佛法能あるなり。佛の教に隨ひ彌陀の光明を獲得する時は、五惡は轉じて五善となり、五痛は變じて五樂と化し、五燒は交りて五妙境界と爲る。經に「佛言はく我汝等を哀愍すること父母の子を念ふよりも甚だし、我今此世に於て作佛して五惡を淨化し、五燒を消除し、五燒を絶滅し、善を以て惡を攻め、生死の苦を抜き、五德を得て無爲の安きに昇らしむ。是世尊の出世の奇特の中の奇特なるものとす。

服膺すべき十二誠

處世十二戒と云ものがある。是は青年の能く意得て置くべき誠である。然るに此戒を
 いかに意得たならば守られませうと云ふのに、斯やうに持ちなされ。
 怒る勿れとの戒は、我目的の如何を顧みて持て。

勞を厭ふ勿れとの戒は、金のなる樹は無しと思ふて持て。

油斷する勿れとの戒は、恐しい大敵と思ふて注意の上に注意すべし。

禮を失する勿れの戒は、人は感情の動物であるから慎めよと。

狼狽する勿れの戒は、氣海丹田に心をすえて従容として手を下すべしと持て。

慢心する勿れの戒は、大成功を期せん爲にと持つ。

自惚する勿れの戒は、自分の短處を認めて持て。

長座する勿れの戒は、時間は黄金なりと思ふて持て。

歎つ勿れとの戒は、斷然として勇進すべしと思ふて持ち。

心配する勿れの戒と、

取越苦勞する勿れの戒は、唯能く現在を處分すれば足れりと思ふて持て。

愚圖々々する勿れの戒は、直に起て機曾を撥むべしと持てよ。

右の十二戒は處世上の誠であれば、青年衆は能く是を受持ちてと意懸れば精神の修

養律となります。記憶にとめて常に心に懸て自己を誠て貫ひたい。

此六が備つて來たならば既に精神修養が極意に達したと云てよろしい。

疑

修養の第三は疑問である。大疑の下に大悟を生ずと云ふ。大疑問を起すのは精神修養に必要なものである。けれども能く工夫を凝らさぬ者には有益な疑問も起らぬ。

疑問とは何である例へば或人が人の性は善であると聞て大に疑を起した。若し人の

性が善ならば、なせに貪りや瞋りなどの惡が發るだらうと疑つた果に、水の本性は清き物だけれども泥で汚物の爲に濁となる。我本性は善だけれども、肉慾の泥から瞋などの濁が生ずるのだと。次に此瞋の濁りが出さぬやうに出來得る哉否やとの疑問を決する爲に一生懸命に試みて遂には濁さぬやうに出來得ると云ふ斷案を下すやうな立派な人と成つたと云ふのである。

又或人は自分の朝寢は矯正することが出来るか否との疑問を解決せんが爲に實行の結果はついに朝起の人と成つたと云ふ。

酒癖の惡きも煙草の害も何でも自分で悪いと認たならば之を自分には矯正が出來得るか否との疑問を起して飽くまで實行して見玉へ、遂には何事でも不可能と云ふ事はないと云ふ斷案を下すやうな勇氣の人となるから。

また信仰の道でも神や佛が有とか無とかの疑問を起して全く有るとか無とか一刀兩斷の下に自ら斷定を下すやうにやつて見玉へ。有るものか知ら無いものか知らずにや

くやで仕舞つたのでは矢張り一生にやくやな人間と成つてしまふ。

有爲なる青年衆よ皆さんは天より良知良能の徳が與へられて有るけれども、堅き錠がおろして有るから疑てふ鍵を以てそれを開き出して御覽なされ、自からながら驚くほと立派な精神と成るから。

昔二人の僧が風で旗の動くのを見て、一人はあれは旗が動くのだと云ひ一人はいや風が動くのちやと互ひに争ふた末、六祖慧能と云ふ人に其判断を願ふた、處が六祖はそれは旗も風も動くのではない。兩人の心が動いて居るのだと斷案を下したと云ふ。斯等は共に吾人が修養未熟の者には解決のつかぬことを躊躇せずして猶豫せずして斷行せよ決心せよと云ことを顯はしてをる。

處世訓

人は其親近父母妻子等死すれば不快にして奮闘の努力を失ひ前途は擁塞せらる。之

を治する天意の存するを自覺し、彈力性を養成し精神の彈力强からば失敗何かあらん意氣壯烈にして決心鐵の如し。

前途を樂み希望に活きよ。

苦痛は或意味に於て無上の快樂たる事あり。トラーテン曰く、世に苦痛多く快樂多し、然れども戀の甘きことや之を失へる苦痛の時だにも他の快樂の總てよりも快樂なりと。

心頭に陰闇の氣を宿すを常とするは愚人なり。

過去の苦を呼び起し現在の幸福を殺ぐ理なし。

自己の心中の陰闇を他人に及ぼし我が悲觀を分つ勿れ。愁訴する勿れ。悲觀するな
かれ。

エマソン曰く、人生に教育究竟の目的は意思を健全ならしめ薄弱なる感情を抑制するにありと。

エマソンは幼時貧にして書代五錢を拂ふべきを母に拒まれ第二卷を讀むこと能はざりき。是を以て不足なく生成せる子女を見て歎じて曰く、憐むべき卿は其生活の苦痛を知らざる爲めに損失せる所の甚だ多きを知らざるべしと。

一枝の彫管を揮て二十萬の字を作りし女流文豪ルイザ、初より大に成すことある抱負あり、一日其父「アトランチック」の主筆より返送せられたる原稿數葉と書信とを女史に示す、書信中に曰く、専心勉強せんことを、ルイザ殿に勧められよ、女史は到底文學者として成功する能はざるべしと。女史是を聞て曰く、願くば彼に告げられよ、妾は必ず文學者として成功すべし、遠からず「アトランチック」に寄稿する所あらんと。幾もなくして一詩を寄す、ロングフエローは見て以てエマソンの手に成れりと察する程の傑作なりとす。女史晩年に至りて曰く、二十年前妾はなるべく獨立の家庭を作らんと決心し四十歳にして始めて目的を達せりと。

有名なる政治家チャールズ曰く、最初の演説に依て名を知らるゝものは恐らく第一

着の勝利に甘ずるなり。然れども第一着に失敗するもの毫も屈せず奮然として第二第三序を追うて猛進するあらば其人は必ず最初に成功せしものより大成功を來すべしと。

執 着 力

眞に事業に成功するものは必ず犠牲、目的を貫徹する執着心を要す。學校にありては生徒中の呼び物校外にては少年を指導する有爲の青年たるも成功の要素たる執着心を缺く時は其前途知るべきのみ。

執着心強きは信用の由て生ずる所何人も確乎たる決心を有する人を信ぜざるものあらず。かかる人が事業に着手すれば着手の時已に半ば成功せりと見て可なり。何人も萬難を排して成就すべきを信すればなり。世人は充分の用意と不拔の意思とを以て事業を遂行するの人に反對せず。人あり確信を抱きて勇往猛進毫も他の輕侮を顧ることなく如何なる事情の下にも本分を全うし責任をさげざるの決心ありとせば何人も此

に屈服せざるを得ざるべし。

克己心と果斷

斷と信。ネルソンとクラントを勝利あらしめしは斷と信となり。果斷は處世上の大要素なり。

ジャンダルクは纖弱なる一小女にして單身國家の危急を救ひたる勇敢は果斷の特性に依りて僅かも彼が祖國を救ふべき神聖なる使命を帯びたりとの確信に鼓舞せられ始めて水火をも辭せざる勇猛の自信を生じたり。

迅速なる決斷と思ひ切たる活動とに對しては鬼神も之をさく。

決斷力の効果

ナポレオンが士官候補生たりし時、汝若し糧道全く絶え包圍せられたりとせば如何と問はれし時彼曰く、敵の陣地に何か食ふべき物あらば毫も屈するに足らず。

決 斷 の 効 果

一八六

シルレルの大作「海戦」は病床に呻吟せし時、有名なる音楽家ハンデルの大作は重患の後、ペーベン耳全く聾悲哀の胸に塞れる時活動せり。最も能く苦しむ者は尤も善く成功す。ミルトンか失明衰弱貧困中「失樂園」を完成す。ミルバーン幼時明を失したるも志を弛めず傳導師となりて終に大僧正と成れり。カロスビーは盲目にして三十餘の讚美歌を大成せり。

ブルツク曰く、「苦しめる者に對する其の救済は其人の苦悶を除き去るにあらずして之に耐へ得べき最も強き克己心を喚起せしむるにあり」と。

ダーエンは四十年間病氣なりしに、平生曰く、少しでも弱味を見せんか忽ち病勢の乗する所とならんと。

バルウアーは絶えず病るも我病めりとなす勿れ、又我病めりと言ふことなかれと言

へり。

某教育家曰く、幼時貧家に生れて教育は意の如くならざりし者長するに及んで高尚なる教育を受んとするの希望燃る如し、此希望は暫時にして捨つべからざる決心なり必ず其目的の通路開かれん。斯る希望と目的とは必要の運命を開拓するをうべし。此難關が前に塞ぐも一旦斷乎たる決心あれば封助するものなり。

自主獨立敢て他に依頼せざる氣力なきものは機會の玩弄物にして境遇の奴隸なり。此らは精神氣力を缺き自己の能力を認めず。

無爲の報酬は零落なり

人自ら侮つて而して後人之を侮る。人生の價値は人自ら人を作るにあるのみ。自己の恃む所は人亦た之を恃み自己の信する所は人も亦た之を信す。

薄弱自信なく自己の判斷に依頼する能はざる者運命を開くことなし。彼等は自ら躊躇し屏息し他に蹂躪せられ粉碎せらる。

有爲いうゐの人は如何いかなる事變じへんに會あひても之これに應たうずる力ちからあるを信しんじ企くつる處ところは成就じやうじゆす。勇ゆう敢かんと意力いりきは終つひに人ひとに認みとめられ信しんぜられ敬仰けいかうせらる。而しかして後のちよく自己じこの能力のうりよくを發揮はつはきすべき機會きくゐに接せつす。

成功すべき人格

失敗しつぱい何物なにものぞ 貧乏びんはう何物なにものぞ 我われに無限むげんの精力せいりよく刻苦こくこあり 社會しやくわいは汝なんぜの爲ために活路くわつろを開ひらかん。

處世上の勇氣心

剛健果斷かうけんくわだんの事業家じげふかには社會しやくわいは謙遜けんそんにして自ら道みちを讓ゆする。常人じやうじんの戰慄せんりつすべき不慮ふりよの災難さいなんがいかに暴威ほうゐを逞たくましふして吾人ごじんに肉迫にくはくし來きたるも決して屈くつすることなく反かへつて以もつて我われ利器りきとなさむ。

マルフォルト曰いはく、成功せいこうせんと欲ほつする人は常ひとに自身つねを成功せいこうしたる位置ゐちに在あるものとして思慮しりよし活動くわつどうするを要えうす、然しからずんば決して成功せいこうすることなし。

窮境に因て一段強くなる

カンニング曰く、人の境遇には必ず困難危険苦痛の伴ふあり。人は之を去らんと欲して懊惱す。或は運命の保護を祈り或は行路の平坦を願ひ吾人を慰藉する朋友を望み或は事業に失敗せざらんことを望むの衝動あり。然るに天は無情にもあらゆる天災病患憂苦等に際して吾人を苦しましむ。然るに外部より来る禍は恐るべきものにあらずして却て我情慾を制抑し吾人の體幹を活動せしむるに足る。

要するに人をして感憤興起せしむるは困難なる境遇より善きはなし。實力之が爲めに生じ確信之がために起る。人間一度此熱火を冒すにあらずんば克己の神髓を共に語るべからず。

浩然の氣を養ふ

精神意氣は恰も火藥の如く猛火の如く物として破碎せざるなく焼かざるなし。之を強固にし旺盛にして社會の闘技場裡に立つ。虎狼途に横はるも何ぞ恐るゝに足らん。況や闇夜の窮鬼をや。然れども人に賢愚あり。其の性慾の馳る所劣情の馳る所に任

せば意氣精神の以て人を大成する所以のもの却て人を殺し世を毒するの凶器とならん。

貯蓄心養成

人生處世上第一に學ばざるべからざるは金錢を貯蓄することなり。是に由て人は痛切に節儉の美德たることを認むるに至るべし。節儉は運命の母にして文野の別は畢竟此美性の有無による。節儉は實に資材を作るのみにあらず人生の性格を向上せしむ。世間に獨力衣食の資なくして大言壯語するものあり、何たる醜態ぞ。

治病

醫藥の外効あるものは強き意志克己心なり。

壯年の元氣を維持し體質を健とす。活潑に他の運動に耐えしむ。彼の不平困苦、心身の健全調和を缺きたるものは早く老衰し、彼の健全なる身心の發達を遂げたるものは悠悠々晩年を樂しむ。

勇氣中に充實せる不屈の精神と小膽との流行病に感染することは前者は後者の半数なり。

ナポレオン醫師も恐るゝ避病院を訪ふ、患者に觸れて感染せず。
恐れざる者には病毒も感染せず。

社會は不斷の戰場

失望嗟嘆因循姑息時間の浪費者、幸運の降り來るを待つも何ぞ得ん。成功は勤勞と耐忍の報酬なり。

肉體を苦しめば靈性は能く本領を發揮す。人生の行路必ず凡百の誘惑あり困難あり
これに屈伏すれば天才も鈍物と化し能く打ち勝たば下愚も上達す。

オウジュホン久しく森林に入て寫生苦心の繪畫二百枚を得たり。

ニウトン二十年の理學の大著述の原稿を猫が燈火を顛覆して焼く。併し猫の背をなで莞爾として爾は吾が苦心の何たるかを解せりやと。

ナポレオン負債に苦しめる秘書官の不徳を面責し罷免を命ず。

パートン曰く一青年の資質果して王者たるをうるか臣僕たるに過ぎざるかを知らんと欲せば彼に千弗を與へて其の爲す所を見よ。勝利たるの資格あらば彼は不時の急に應せんが爲に之を保存すべきも然らざれば彼は其嗜好に任せて之を消費すべしと。

金錢に對する主要の觀念は負債を恐るゝにあり。

算數の智識

成功の秘訣は何ぞ。節約、特に金錢の節約に重を置かざるをえず。節約は貯蓄を生じ貯蓄は成功の母となる。人間を獨立せしむるものは此力なり。青年の活動の氣を生ぜしむるは此力なり。其材能を縱横に働かしむるも此力なり。幸福と慰安を與ふるも此力なり。故に若し天下の少年をして能く此力あるを知らしめば其法測り知るべからず。

算數の智識なきものは收入以内の生活をする能はず。殊に婦人は此能力を缺くもの

多し。隨て日常に家計上損害を蒙ること莫大なり。吾人は中流の家庭が零落の悲運に陥るを見て主婦たる者の責任に歸すべきを知る。ワシントンは大統領たりし時と雖も其家計の出納を視頗る緻密なりき。カーライル曰く、貯蓄は美德なり、人をして獨立せしむと。ラッセルセトデ曰く、節約は幸福の要素なりと。且つ勤儉の道之を實行するは簡單にして容易なり、而も其結果は事業の成功となり家庭の快樂となり社會の尊敬を博するに至る。

素朴の生活をなす者は恐らくは全體に於て富める者よりも幸福ならん。

人格の要素

克己は人格を造る要素にしてあらゆる道德の根源なり。自ら抑制なく感情及び性慾に縱なれば道義は勢力を失ふ。情慾の奴隸となる。道義を發揮し人の本分を盡さんに自然の情慾を抑制せざるべからず。此抑制は即ち克己なり。克己は性格の根底を造り道義生活をなさしむる要素なり。

人は兩面の生活あり、性慾と道義なり。性慾は生理上自然のものなり。自然は養成せざるべからざると共に又抑制せざるべからず。全然性慾に一任せば他の動物と選ぶ所なからん。道義生活に入て心靈よく生理心を抑制す。

理想的人物

剛勇忍耐献身等の諸性は習慣を以て養成す。自任放縱度なければ圓滿なる人格たらず。服従と自己の本分とを盡す觀念を確乎にす。是の修養を缺がば吾人は獨立力行の人たる能はず。希望要求を高潔なる靈性に服務せば良心の命に服従す。性癖嗜好の奴隸感情誘惑の玩弄物となるなかれ。

スペンサー曰く、克己心の極致は一の理想的人物を作る。かゝる人は感情に馳るなく、隨處に簇生し底止することなき慾望に驅逐せらるゝことなく、自ら檢束し自ら商量し諸種の感覺を綜合し充分に忍耐し冷靜に決定したる結果によりて行動す。是れ道義的教育の必要なる所以也。

家庭の教養

徳性修養第一着の效果は家庭、次が學校、次が實際社會なり。社會に於る人生の價値は家庭學校にて順境に立ち節制なく訓練なく放埒自在に成長したる者が社會に出て失敗を招くは當然なり。社會も亦た彼等に向て何の益する處なし。善良なる家庭は其子女に對する訓練完全なり。徳性の修養は無意識に良心の活動を見るに及んで始めて健全なる品性を陶冶したりと言ふべきものにて其の習慣性とならざる間は常に其心に調和を缺けば顯著なる効果を見る能はず。

家庭訓

妊娠中

一、精神の養生、精神爽快に且つ安穩を保ち濫に怒を發すべからず。不意の恐怖及び難杳なる世務、精神を攪亂すべき感動は除くべし。

二、新鮮なる空氣の呼吸、居室の清潔、演劇等人の集る處に立入るべからず、
程よき運動、血液病、消化障害、不眠等は運動缺乏より起る。されど運動過れば又害
となる。

屈必壓迫の動はさくべし。

腹部を暖め外寒を防げ。

全身浴をして體を滌くべし。

食料は不消化物をさけよ。晚餐過ぐること勿れ。

熱湯をさけよ。濃茶珈琲をさけよ。

初期に嘔氣を起さば食をべからず。

臨月の腰部、疼痛、眩暈、齒痛劇しきも分娩すれば治ることなれば忍耐せよ。

毎朝清き水、熱したる果物を以て便通を定規す。

乳房は溫暖に保護し、寒さを防ぎ壓迫する勿れ。

臨月近きに冷水にて乳房を洗ひ、乳陷没するものは唾液にて濕してひき出せよ。
末期身心共に安靜なれ。

子を育つる心得

白絹の如く染方による。子の賢愚強弱一生の内此時より大切な期なし。成長後職業を教ゆるは父にあり。幼稚の間は母の任なり。
體智徳の三育。健康完全、恰到活潑、善良方正。

乳母は子の模範、素情正しきを選ぶべし。子守は子の爲に行儀作法惡しきは不可。
乳飲み過ぎ、子守緊緩をすべからず。日光と空氣の通ずる處に遊ばしめ、室内塾居食物多く與ふるは宜しからず。玩具を與ふべし。種々の玩具は智慧を増す。三度の食物規則正しく日に兩度は差支へなし、飽氣をさけ果物未熟は與ふべからず。衣服は華美をさけ運動遊戲に便、經濟と衛生に益なるを選べ。

小兒には虚言を語るなかれ、屢々すれば子は其母を信ぜざるに到り、また自分も虚

言を吐くに至る。母他出に跡戻りても土産を買つて来るなかれ。子供を濫りにおどかし、子供の泣くや巡査又は醫者を連れて来る等言ふは不可。幼稚兒に讀書を授くるは身體の發達を害す。六歳未満の子に唱歌又は教育趣味の遊び。活潑に遊ばしめて惡しき風習を染ましめざれ。

天氣の好き日は戸外へ出でしめよ。溫き室より俄に外の酷寒又は烈しき風に觸るれば馬脾風を發す。朝飯早き小兒は食物欲しき爲なればなり。子保は品行正しく友達と口論立食ひなどすべからず。その子自分の遊びの爲に子に頓着せぬはわるし。主家の前を丁寧にし遠く離るれば顔をたゞき尻をつねり子の病を起す。子保は小兒の智慧を發達せしむ。子保を手荒らに取扱ふはわるし。小兒の飽きて厭ふとき強ひて勧むるは惡し。子保は高足駄類のかげたる下駄をはく勿れ。

家庭教育

子の教育は母なる人之を抱きて慈愛の呼吸をかけ、子が見へざる眼をもたげて母の

顔に向ひたらんときより教育は始る。未だ學校に就かざる前家庭に於て、事物に見聞する處是れ敎庭。之を陶器に譬ふれば家庭は大小方圓の本の形、學校は種々の色彩模様の巧拙なり。身體と相應し腦力の耐ふるに隨ひ、強ひて敎ゆるに及ばず。父母年長者の行爲が小兒の觸目、悉く模範たり。三兒の魂百までなり。孟母の三遷せし所以。小兒の時の印象は長く忘れず。

家庭教育六歳以下の兒を養ふに、小兒として敎ゆべし。大人の如くにならしめ又は強ひてなさんとするは却てあし。天真の小兒を撓めて修飾せず只惡を見聞せしめざれば足る。衣服を汚すと喧しきあれど兒は遊びが科業、快よく遊ぶと種々新しき智識を養ふ、惡しき遊びと危きの外は放任せよ。衣服の汚はよし、華美は不可なり。運動に便、筒袖の上衣胸あて屢々洗濯し華美の着物の汚を心配し運動を撓束するは不可なり。

小兒の喧嘩

兒は活潑數入集まれば始は餘りに溫柔は病身、喧嘩には大人干渉なく放任すべし。母の裁判は惡し却て小兒間の怨を永く記臆す。一家の兄弟もよく喧嘩によりて互ひに情愛を養ふ、憂ふるに足らず。

小兒の疑問

兒は疑問を起したがる。觸自悉く人に尋ぬ。之はよきに教ゆべし。有効なる智識の涵養、決して禁すべからず。寧ろ獎勵すべし。之を五月蠅とて無愛想に擯斥するは不可なり。

小兒の模倣

兒は何事にも大人の模倣を欲す。角力、軍人、遊女是ぞ孟母の其子を三遷せし所以、小兒の時の印象は忘れず、平生父母行儀惡しければ小兒之を倣ふ。

小兒の食事

小兒の待遇注意すべし。兒は自由平等を好み己が與られたるものが他より劣れば不

満を抱き、父母は他を愛して我を愛せずと謂ひ、ついに後年兄弟不和の基となり至み根性を生ず。食物の分配を公平にし、膳に向ふとき衣服態度方正ならしむべし。世に兒に方正を命じながら自ら不行儀なるは兒放縱に流れ易し。父母成るべく實行模倣せしむべし。

不適當の職業（西哲の格言）

ロングフエロ曰く回らぬ過去を以て浪費と爲すなかれ。其難破船に立て吾人は最後に向一層高尚なる或ものを得んと。

世界文明史上に其名藉々たる詩人、哲人、美術家、哲學者將た學者にして其天才を父母保護者乃至教師に誤解せられざりしもの稀なり。此等の場合に於て神は直接の反對を以て勝を制したるが如し。神は其寵兒が爲に其特權を主張し、不從順秘密虛言は勿論脱走拐帶等を以て敢てせしめしは、其非常なる苦心を以て造りたるものを失ふに忍びざりしが故なりと。

ガリレオがピサの大學に入るや哲學に耽りて醫學の研究を忘るゝ勿れと父に誠しめらる。然れ共彼は己れの好む處に隨て終に稀世の天才を完全に發達せしむ。若し彼をして醫者たらしめば世界はいかに損失の大なりしぞ。

マーデン曰く、虛榮心に富める父母は動もすれば其子の職工たらんとする相當なる希望を檢束して、強ひて大學に入らしめ天晴有望なる職工を平凡なる法學者と爲す。其愚や及ぶべからず。また高尚なる學問思索を熱望する少年を不明の父母は度外視し碌々たる吳服屋の番頭となし畢る。

フランクリンの父はボストン市に蠟燭製造人たり。父の爲に燈心を切りしが其業を厭ひて兄の先蹤に習ひて海上に逃れんと決心し、遂にフィラデルフィアに脱走して後大業を遂げたり。ヂッケンスは初め俳優を志して成らず方面を轉じて以て驥足を伸すに作の適當を得たり。現今過半の人は適所を誤つて輾轉不遇を嘆じ以て大倉の粟陣々相寄るの觀を呈せり。人各々其處を得る時に世界の文明は其最高潮に達せん。現今有

爲の青年男女にして誤解せられ、窘迫せられ將た自己の事情、過失或は父母の事情過失の爲に押込められたる四角の穴より脱せんと跳きつゝあるもの豈千百にして止まらんや、實に適處を得た人は幸福なり。其任にあらざる人も敢て活許には差支へなかるべしと雖も、適任者に固有なる呼吸と活動と精力と熱心とを失へり。勤勉は彼に於て之を見ることを得るも唯器械的に働くのみ。不適任者は絶へず時計を眺めて日を暮す。人其適所を得る時は幸福、喜悅、快活及び活動に富む。彼の爲に今日は常に短く彼の有せる一切の能力は彼の仕事に同意を表し、彼の職業に「然り」を言ふ彼は丈夫なり。自重す。然して彼の實力は彼自然の圈内に於て遊戲するが故に幸福なり。社會に適所を得る者例へば醫者として成功すべき宣教師、技師に適材なる番頭の多き頗る多を見るは何人も人間の判斷力、人生に於ける地位の選擇に過失を演ずること往々なるを否定し得ざるべし。人にして功名心なきはなし、人若し自分の判斷に訴へて選擇を誤る時は、數年を出さずして其過失を發見するも自覺すること晚き時は成功の機會

を逸すること多し。實力を知る者は必ず成功の確信を有す。是に於てか人の適處を知る法いかにてふ問題生ず。而して其答に「己を知る」の一語に盡せり。何人も他人より見れば一個の不可解の謎なり。造物主より密封せる命令書を頂戴して派遣せられたる代理者なり。人其位置を発見する時は之に通せる故に熱心なり満足なり。確信ある時は自ら驥足を伸ばす可し。魚は陸上に於て泳がんとせざれども水中に在る時は其鰭を用ゆることに躊躇せず。「勤勉は萬事に勝つ」「精神一到何事かならざらん」「人は能ふと思ふものをなし能ふ」等の大言壯語に煽動せられて其業を賤しめ、不適當なる法律を學ぶあり其愚や眞に憐むべし。

古來人材の蹉跎する者多きは何の故ぞ。龍淺水に遊ぶ時は蝦の戯れに遇ひ、虎平溝に落ちて犬に欺かる。英雄も其處を得ざれば木偶に等し。惜むらくは彼等其適所を発見するの法を知らず。才の用ひられざるを嘆じ知己なきを啣ち、失意落膽の餘り自暴自棄するに至る。犯罪自殺等の如き人生最恨事は正に適所を得ざりし人の陷る弊竇な

り。得意の人は罪を侵さじ、人適所に在る時は心平なり満足あるが故なり。農夫たり鍛冶屋たり村夫子たるも敢て恥となさじ。名をさけ實を取り褐を被りて玉を懷く。彼や其適所を得たり其天の使命を果たさんとする自信は自ら彼を化して勢力を爲す。彼は一本の莖も亭々として敷丈の高き天を摩するの觀あり。

「汝の適處を求めて汝の任を全ふすべし」

自然が汝に期待する所に就け、さらば成功すべし徒らに其他を望まば無より數千倍劣れるものとならんと」

(右アメリカのマーデン氏の成功てふ書よりシドニースミスの言を抜粹す)

不斷の規律的生活

眼光機惠用意周到なるもの不斷の光規律正しきに非れば、今日の快活一變して憂鬱三變憤怒をば根據なく起すに至る。意志の鞏固なる地盤堅き規律の上に不斷の進行は快活の清風除るに潔白健固不動。慾鬱失望の人も不斷規律と秩序生活とならば快

活と清爽の觀念に入る。自己日常の規律嚴正なる自己の目的に到達せんが爲には不斷の鍛鍊は理想の如くにす。人々を至善に向つて向上し意志を鍛へ圓滿なる人格たらしむるは秩序的生涯なり。不斷なれば必ず改る。人一定の業務なく規律なく困窮無爲の中に貴重の光の時間を過さば、其心に不斷の活氣なく想に葬られ意氣沮喪す。人の確乎たる目的に向て規律あり秩序ある生涯には前途には光輝々として不斷に向上し無限の希望は不斷にして不斷の趣味を生せん。

不斷に規律を立て事務を進行すべし。規律と秩序生活は天賦とまた平素の訓練なり。事務整理上規律なき人は危険なり。秩序立つて飽く迄一方を濟ます。

一事に一時。整理し了らざれば他に着手せず。實務家に秩序的生涯の工夫なからんか實に混亂否塞して失敗踉蹌失望の淵に立ちて晩年を送らん。

子供の泣様

病氣泣、

脅し泣。泣く子の兩手をしつかり握て手を放とする。其中に子供の方で反應のなきを見て次第におとなしくす。子供の盛なる突撃來る時は疳癩泣。こは肉體及精神の異狀から來る。床の上に寢かして頭を冷し出來る丈親切にすれば感じて止む。

拗ね泣。すゝりなき時を得て賺せば止む。成べくすてゝ置き好い時にすかすべし。

子供の人格

人格を作り上る元因には必ず嚴格なる家庭の教育兩親の感化子弟の教育に熱心なる者は賢明なる雄々しき氣象の母彼を天晴人物に育てんとの苦心慘愴の家庭は彼を然あらしむ。

交友訓

汝の位置と義務とは斯のホームに存す、艱難辛苦大ならば其報酬もまた益々豊なら

ん。

如何にして他人に満足を與ふ。何人に對するにも輝ける微笑と深切なる言語と愉快なる待遇を示せよ。世には知識思慮判斷の缺乏する爲に自己の愛し庇護せんとする人をも怒らしむることあり。人の知に乏しき點は如何に人を愛し如何に人を憎むかの一事なり。彼等は自己の愛する人に對しては或は寛容に過ぎ、甚しきは偏頗的庇護與へて却て其人を賊ふことすらあり。自己の好まざる人に對しては怒るに時を以てせず、却て己を害するあり。

人に對しては餘りに城廓を設くること勿れ。憚る所なく汝の情愛を外部に發現せよ。

最良の交友は諸徳中高尙なる者にして我等の歡喜は之を二倍し我らの憂苦は之を半分にす。交友は人生の寶石なり、朋友なき人は甚だ憐れむべし。況や朋友なき人は多分その人自身の過失によるに於てをや。

人は何の時にても友人に對して不滿を抱くことあるべし。斯る場合には忍耐せよ、分別せよ、朋友と位置を替て觀察せよ、何事も輕卒に斷すること忽れ、自然は決して蒼皇たることなし。

若し朋友の態度行爲に對して疑惑の挾むべきあらば、其儘眠につけよ。決して喧爭する勿れ。反覆熟考せよ、時間を経過せよ、終夜惱むとも多くは明朝は心機一轉するものなり。

汝若し友を破るべき書翰を認めなば直ちに之を郵便函に投する勿れ、翌日まで置けよ往々全くこれを發送せずして止むことあるべし。

良友は友を多くの危険の中より救ひ出し友の爲に多くの悲痛を撃拂ふ。羅馬帝オーガスタスが其息女チュリアの故を以て恥辱を被むるや、嘆じて曰く、若しマセエナスにして存命せんには豈かるゝことの起るべけんやと。

されば人一たび朋友を得たる以上は汲々として之を失はざらんことを務めよ、たと

ひ瑣細たりとも彼等をして不満を抱かしむることなかれ、朋友は死して幽明を隔つることあるも猶未來に於て再び相見るの望あり。

時間の浪費は後悔の基、時間は天の貴重なる賜の一にして一度之を失はば再び回復し得べからず。

されば時間を使用するに際して他日の後悔を貽すが如き行爲あるべからず。

歡喜光なき處（人生を淋しく暮す人）

常に歡喜光あるを信せず、何事に就ても不満を抱き憂思苦痛の言語を發する者は、人生の平和幸福を享受せられざるは勿論、是ミオヤの歡喜光を無する罪人なり。些少の不平を忍ぶことを知らず、少しの忍耐を發揮すべき勇氣なく、己が氣儘に任せ、ミオヤの光を頼むことなきものは、一生不幸は茲に萌發し他日に憂苦の花開き、いかに精神的に闇黒の生活を通れんとするも得て期すべからず。憂悲鬱惱の果は結びて終身

煩悶の奴隸とならん。

ミヤヤの大悲

聖善導は教へ給ふた。毎晨朝に、

佛は救世大慈の父なりと念へと。毎晨朝に之を誦せよと御勧めになりしは、先づ朝

日昇ると共に、朝日輝く大慈の父を念じて、今日一日あなたの御慈しみとみ光とを被

むりて活き、また靈化せられつゝある身なれば、あなたの御慈しみに對して、聖意に

合ふやうに、聖寵に育まるゝやうに、今日の賜ものの貴重なる時間を善用するやうに

一心に心がくべく教へ給ふた。我らは幼き子にして、大ミオヤの聖寵を離れては、唯

肉の方のみに働らきて、靈に活くべき最とも貴き方には進むことの出来ぬ頑是なき兒

唯大慈父の御慈しみによりてのみ育まるるもの、聖寵のまにゝ慈悲の乳房を嘔みて

ますゝ發育することなれば善いけれども、唯亡びにゆく形の方にのみますゝ發

達して、如來の御子たる我をして發育することの出來ぬのはたゞ慚愧の外なし。

大悲のミオヤを人々に紹介して、大ミオヤの在ますことを信じて、聖意を我意として、生活するやうにと、先日よりもつばら勸むれどもまだ自分の誠少なくして、全く聖意に充されて居らず、私の心を以てミオヤの聖意を宣傳せんとして居る故に、何人をも信せねばならぬ大ミオヤの聖意を皆に紹介することが出來ぬ、夫でも大ミオヤは、此實に憐な曠却己來ミオヤのいと暖なる懷を離れて六道の迷子と成つて淺間敷も餓鬼、畜生の魂となつて、人間の形を假りて居る人間計りが充満して居るのはいとも憐れとおぼしめし給ふ。

一事を遂ぐること

充分に注意を以て爲したる事は後難の虞なし。(セーキスビーア)

備はるを責むるは難しと雖も、何事も完を期すべし。完を期する人は怠慢と失望の餘り不可能として放棄するよりも、完全の域に近くこと數歩なり。(チエスターフエールド)

早急は常に仕事を損ふのみにあらず、又生命を損ふ。(ラボツク)

之を要するに何事にも自信なき人を決して信する勿れ。(スターン)

毎日一時間にも勉強の良習慣を得て飽まで其の學ぶ所に精通せんと期する人は一年の末に於て其の進歩の跡に驚かん。(リットン)

天下の青年は一事を完全に爲し遂ぐれば満足安心てふ一大報酬ある事を知らざる可らず。事正に出でざれば實益なし。事をなして遺算なきを期するは立身の基なり。

己が行爲の正不正を無視し眼中唯賃銀あるのみの人は其の賃銀の種類が金銀と官職と名譽との如何に關せず陋劣なり。(エマーソン)

未成の仕事は以て仕事と稱するを得ず。一種の腫物なり、流産なり、兒童が熱心に花園を掘る、頃刻の後初の熱心消えて川に出て魚を釣る。久しからずして倦み果て船を造る。心機一轉し球を弄び、隨時其思ふ處に従ふて毫も遲疑せず。

或偉人曰く、我が大成せるは他なし、予は一時に唯一事を爲し而して之を爲し遂けずんば止まず。

備忘録を製するに五年過ぎて讀み難き程粗略なる可らず、何事も早急の餘り散漫に流るべからず。吾人が目して淺薄と評する人は此方法によりて形づくらる。而して事を爲し遂ぐる習慣を養成するの心掛なき人には淺薄已上を期待するを得ず。

電信機發明家のモールス、初めロンドンにて繪を學び、ウエストの批評を請はんとて、ヘルキユレスの半身像を畫く。心血を濺ぐ事長日月、成るに及んで心竊かに以爲

らく會心の作なりと。ウエスト一通り之を検したる後徐に之を返却し「上出来也、君宜しく尙進んで之を完成せよ」と。言意表に出でしかば青年畫家怫然として「是完成せるものなり」と云へり。ウエスト其の缺點を指摘するに及んでモールス初めて悟る處あり。筆を加ふる事一周更に示す。激賞措かざりしが前と同一の要求を陳べて之を突返す。モールス案に相違し「未だ充分ならざる乎」と嘆息す。モールス家に歸り存分に筆を加へ數日を経て師に示す。師の態度は依然として舊の如し。モールス悄然として曰く「休なん、最早予の力の及ぶ所に非ず」。ウエスト破顔一番、初めて眞意を吐露して曰く「予は充分長く足下を試みたり。足下之が爲に益せる所當に二倍の時間を費して十二枚の半成畫を稽古せるに勝れり。冀くは足下一枚の畫を完成すべし。足下初めて畫工たるを得ん。

自然界に放てる一枚の木葉と雖も完全ならざるはなし。葉脈莖縁の微に至るまで精確完全を極めて餘す所なし。人跡絶えたる幽溪に世を忍び顔なる草花も其の形狀輪廓

色及び美悉く備はりて女王の御苑に移し植ゑて叡覽に供するも恥しからず、「始末をつける」とは青年が三拜すべき格言也。「爲さんと決したることは相違なく爲せ」とは口スチャイルドの格言。

シカゴ大學のヤーク望遠鏡の四十吋眼鏡世界第一の高價は、クラーク氏の創造。
チャールス第一世の大宰相ストラッフォード「完全」の一語を座右の銘とす。

ジョンソンは「乃公一たび事を決せば乃公は仕立屋の針の如く貫き通らすんば已ます」。

靴工となるは恥辱にあらず然れども粗末なる靴を製するは恥辱なり。

昔一人の守錢奴巨萬の寶を蓄積し地中に埋む、目標として其の上に圓石を据ゑしが二人の鍛冶屋に發見せらる、二人互に其所有を爭ひ遂に鐵槌を製す。一人は慾に目眩み龜製せし爲損じて用をなさず、入念に作るもの鐵槌を以て敵の不在に其の寶を掘つて家に劫行きたり。

獨 立

内部ないぶよりの助力じよりよくは其人そのひとを強くすれども外界ぐわいかいよりの助力じよりよくは其その人ひとを弱よわくす。汝等なんぢらをして水泳術すゐえいじゆつに達たつせしむるものはコルク板いたや救命器きうめいきの使用しようにあらすして勇躍ゆうやくして水中みづうちに入り太き筋肉きんにくを以もつて水みづを打うつことなり。

自ら斷みづかせずして他ひとに謀はかる人ひとは遂つひに道德的懦弱者だうとくてきだじやくしやうおや及び智力的侏儒ちりよくてうしやうじゆと爲なる。斯かる輩ものは内に「我われ」を有いせず我われを信仰しんかうせずして他人たにんの門牆もんせうに走はしり叩頭こうとう平身へいしんして彼等かれらの「我われ」を貸與たいよせんことを嘆願たんぐわんす。

競争けいさうに勝かつものは堅忍努力けんにんりよく刻苦勵精くくれいせい斷乎だんこたる決行けつかう不變ふへんの目的等もくてきとうは成功せいこうの要素えうそなり。自暴自棄じほうじきする勿なかれ。唐辛子とうがらしの種子たねは唐辛子とうがらしとなり、林檎りんごの種子たねは林檎りんごとなり、個々こごの人ひとは個々こごの種たねにして其その本分ほんぶんは日光にっこうに浴よくし雨露うろに潤うるひ以もつて其その發芽力はつがいりよくを擴充くわくわうじうして葉はとなり纖維せんいと爲なり花はなと爲なり實みと爲なるなり。種子たねの種類しゆるみは毫ちひさも顧かへりみることなく其その可能かうりやう

性を發展すべきのみ。

由來學校及教師の不足も書籍の缺乏も不健康も聾も盲も寒さも懸念も氣骨ある士の自修獨學を妨ぐる事能はざりき。

智識を得んと欲せば自ら骨折らざるべからず。食を得んと欲せば自ら勞せざるべからず。快樂を得んと欲せば爲に働かざるべからず。勞苦は原則なり。苦は樂の種也。吾人の有せざるものゝために努力する間に各人の長所は發展し吾人の大事業は成就す

ワイズ氏曰く「智は人間の誇なり修養を積める才能ほど生産的なるものなく、財産門閥官職等は其の所有者に表面の敬意を表せしむるも衷心より敬意を拂はしむる事なし。又拂はしむる能はず、人をして眞率なる敬意を表はしむるものは偉大にして高尚なる靈を有せる人即ち學識と徳性とを具備せる人に限る」。

希望目的學徳の鮮なりし優秀の青年が多く豫期に反して志を得ざるは抑も何故ぞや。曰く、大成功の代價たる修養の苦を避くるが爲なり。如何なる天才も勉強努力

にあらざれば其の才を用ふること能はず。

自修てふ眼に見えざる泉は總ての偉大なる成功の源也。

或人曰く「最も微賤なる男女と雖も天晴見事なる生活を爲し能ふ」と。

宇宙は吾人が吾人の仕事を完成するにあらざれば眞に完全なるものにあらず。

亞丁の建築家は冥々の神ミネルバの照鑑ありとて、其の圓柱の上部と下部とに於て技を二にせざりき。

ジョン・オビーの未亡人アメリカ曰く「夫と連添ふこと九年の間未だ一度も彼が作品に満足せる様子を見たることなし。逆も一生畫家には成れずと嘆ずること度々なり」と。オビーの名が赫々として天日の如くなりし所以は這般の高尙なる失望なり。

佛國の小説家バルザックは一頁の原稿に一週間を費す事稀ならざりき。

プフオンの「自然の研究」は五十年間刻苦の稿を改むること十八回。

ミレーは農夫の子「アンゼラス」は十二萬五千弗の價格。

ポストン市の大理石天に聳ゆる一大壯觀、幾何もあらずして俄然崩壊したり、其の破壊の原因は地窄の下に數呎の古壁あり、數弗の費用を惜みたるの餘こゝに至れり。

學生の成功の秘訣は第一忍耐第二復習の不斷的習慣也。

自然は一輪の薔薇一輪の果實を作り其の完成を期するに數世紀を用ゆ。

完全とは精密の意を含蓄す。確實ならざる人、臆斷する人、想像する人、推量する人、假定する人等は信用し難し。

完全を期せよ。何事に着手するも必ず其の始と終と内側と外側と原因と結果及び頂上と底とを知らざる可らず。

汝の適處を擇ぶに注意せよ、然れども一度手を下せば一事を仕遂げ、斃れて後止め。時間は人生最貴重物、古人曰く時は金也、否金錢よりも貴重、蓋し數百萬圓を以てするも尙一瞬を買ふこと能はざればなり。

必要なる物を完成すと不要の末事に兀々たると其の間距る事三千里、末事に拘泥し

て無益に細微の區別をなすの習慣は仕事の怠慢粗略と毫も擇ぶことなし。

成功家某曰く「苟も一旦爲さんと志せし限り予は如何なるものと雖も必ず満腔の熱心を以て之に當れり。一度事に當る限りは一心不亂、一寸の隙もなし。大事にも小事にも予は常に熱心を以て當りぬ」。

獨立獨行

自恃と克己 心とは我水を飲み我パンを食ひ以て獨立の生計を營む爲に眞面目に學び又は働き且つ實力を以て得たるものゝ中より若干を貯蓄して未來に備ふる事を人に教ゆるものなり。(ペーコン)

何人も自恃 心を失ふ可らず自恃 心は眞丈夫の主なる要素なり(コツスト) 苦痛ある人に對して吾人の探るべき最良救護策は其の苦痛を除くにあらずして其の苦痛に耐へ得る元氣を鼓舞するにあり。(ブルツクス)

若し夫れ強壯なる少年自宅にある時手を懷にして安逸を貪り、母或は姉妹に厄介を及ばさば天下豈之を惡まざらんや。

ビスマーク一友と共に山野に狩す。歸路淺き川を渉る。ビスマークは巧みに石を踏みて渡りしが友人過つて水中に落つ。砂の中に足を没し周章狼狽を極む。果は聲を放つて泣き、雙手を上げて救を求む。醜態實に見るに忍びず。ビスマークの救助策は極めて奇抜なり。乃ち肩にせる小銃を取直し彈丸を込め引金に指頭をかけ、狙を定めて將に火蓋を切らんとす。其の形相物凄き事言ふばかりなし。是に於て憐れむべき水中の人は怒と恐とを以て渾身の勇を奮ひ一躍して岸頭に上りぬ。ビスマーク乃ち莞爾として銃を取直し初めて意中を吐露して曰く、是全く君をして必死の勇を鼓し以て自ら危難を脱せしめんが爲みのみ。請ふ予の無禮を咎むるなかれと。

或人畫工オビーに問ふて曰く「君の門弟に畫事を教授する方針如何」答へて曰く「君が小狗に水泳を教ふる如く、死地に陥り然る後生るを以て主義とす」。

ジョン・バンヤンは空前の寓意小説を聞々たる獄裡に呻吟中に作れり。彼は獄中の寸陰も徒費せざりき。彼はバイブルとフォックスの二巻を手にして凄愴の氣に満ちたる獄裡に呻吟中に名著天路歷程を作りぬ。彼は徒らに坐し我運命を悲み天命を怨み迫害者を呪咀する如き無氣力漢にあらず。獄屋は彼の爲に最も有益なる適處に投せられたるものと云ふべし。彼は圖書館の便なく他人の助力を待たず、必要に迫られて獨立自助の精神を喚發したる也、彼はバイブルを精讀し其深みある描寫より曾て夢想だに無き重寶を發見したり。其富や絶大其美や絶倫也、彼の眼に映する牢獄は金殿玉樓と異なる所なし。彼が自己胸中一大寶庫の存せるを悟りぬ。

世界が眞に尊敬を拂ふものは各種の困難障礙を排除し以て己が才器の短なる所を補ふ處の勉強努力なり換言すれば沮喪せざる精力なり。

グレース、ダーリングは孤島にありて老年の父母と歲月を送れる少女にて、功名の機會も無し。然るに名譽と財産とを目的として都の空に志したる彼女の兄弟姉妹は

香として聞えざるに彼女は女王よりも有名となれり。グレースは倫敦に行きて貴族を見るの必要なかりき。貴族等却つて千里を遠しとせずして孤島に彼女を訪ひたり。少女は坐ながらに王侯の羨む名聲を博しぬ。

グランドの同窓生の一人憮然として曰く「髻髪のグランドに今日の成功を期待したるものあらんや。彼は學力中等にして學科を怠りナポレオン傳を讀むに教師は怒りて之を沒收し火中に投せり。風采の平凡なるグランド、家庭に於ける少年グランド、大膽不敵、物覺えの惡きこと及び剛情以外何等の特色あらざりき。

現今サンスクリット及びゼンド語學者の泰斗と仰がるる米人は學校の出身者にあらすして市街鐵道の車掌として毎日十七時づゝ勞働せる時に於て語學研究の端を開けりダニエル、ウエブスター嘗て其の曾孫に寄せて曰く「貴殿は自力に待たざれば學ぶ所之なかるべく渾身の力を以て研鑽するに非ざれば世界中の教師に教を仰ぐも學者たること難し」と。

大事業を成すものは必ず天稟の勇氣及び器量絶倫なる人にあらすして異常の勤勉と最も能く意を用ひて訓練せる熟練とを以て其の能力を行使する人也、而して這般の熟練は刻苦勵精及び經驗に待たざる可らず。

世界の目的

此黄金佛には二の不思議あり到る處に崇拜せられて一刹なき其の一なり。有ゆる階級の人に崇拜せられて一偽善者なき其の二なり。(コルトン)

金錢を蛇蝎の如く憎む人は悉く信する勿れ、蓋し失望の餘是を賤しむものなればなり。(ペーコン)

貧に迫りて始めて金錢の有難味生ず。

金錢方便及び満足に乏しき人は三良友なきものと謂ふべし。(セーキスピア)

富める心なき富者は一個の醜き乞食也。(エマーソン)

已を得ざる場合即ち恥辱と二者其の一を擇ばざるべからざる場合にあらざれば貧は
何人も好まざる條件なり。此世間一般の尊信せる金錢に反抗して如何に絶叫するも何
の反響あらんや。

所詮金錢は俗世の神經を過敏ならしむる刺激物也、金錢の欲は人事を維持するに足
る一勢力也、道德的引力の一大原則なり。

兎に角貧は諸道の妨也、青年讀者若し四百四病よりも貧のつらきものなる事を知
らば吾人の幸福何物か之に如かんや。

自然は其の人類不滅の大目的を擁護の爲又一歩誤れば社會に害毒を流すの虞ある金
錢權力及び成功の欲を以て始めて文明開化を可能ならしむる事を得べし。間斷なき
人類進化の裏面には自我的本能性を満足せしめんとする普遍的欲望あり。個々が其の
欲望を遂げしめんが爲めに互に相争ひつゝあるは、即ち自然が漁夫の利とする處にし
て自然は之を化して人類の恩恵とす。隣人の右に出んとて鎬を削つて輸贏を争ふ人は

各社會に絶大なる貢獻を與ふるもの也。權力名聲及び金力に伴ふ利便に對する這般の猛烈なる欲望を外にして自然は焉ぞ人間の最高類型を改善し得んや。這般の際限なき熱望あらずんば勤勉忍耐機智聰明及び節儉の與ふる教化は那邊に求めんや、又勇氣自己犠牲及び進取の動機那邊より來らんや。此三者あらざれば偉人は不可能なり。世評に拘泥せずして能く自己の仕事を尊重する人は他日必ず頭角を表はすべし。勞働の最良なる產物は仕事に熱心にして心の高尚なる勞働者なり。

グラッドストンの至誠と熱心とは始終其の政友を鼓舞したり。ブルツクスの勢力強烈なる赫として天日の頭上に中せるが如く群小仰ぎ瞻て以て怪となす。其の是あるは熱心の絶倫なるが故なり。

實務と云ひ文學と言ひ美術と云ひ凡そ事の如何を問はず一たび志を立つれば必ず愛を以て爲さざるべからず。(メルモース)

熱心は人の誠を證明する鐵案也。言語の如き金錢の如き其他のものはすべて之を與

ふる事比較的容易也と雖も、人が其生命を投出す時は其の事の如何に拘はらず満腔是至誠也と知るべし。

ハックスレー曰く、古來學術上の大事業にして熱心を缺きたる人に依りて成されたものなし。才幹の如きは與らざる處也と。

ホワイトエールト君に接して如何なる感あるや、造船家答ふらく「予日曜寺院に至る毎に予は説教に耳を傾けながら尙一般の建築全部を竣成するに足る。然れどもホワイトエールト君の面前に於て少しく心を餘所にせば一枚の板をも打ち附くること能はざるべし。

螢雪の功

著者の名を千載不朽に傳ふる學術上の書も、文學の一篇も美術上の各流派の作品も一として多年苦心經營の餘に成りたるものならざるはなし。

廣西のチイン獄吏の爲に誤られて獄に投せらる。チイン戒めて曰く「爾來輕卒に事を斷する勿れ。又貧富の別に依りて待遇を二にする勿れ。天下是より誤まれるはなし。驕る者遂に久しからず、冤に居る者の涙は天に凝りて適切なる應報が苦しむる者の頭上に落せすんば止まず。而して天は不正なる者の願を容るることなし。ユーゴー曰く「生きる人は努力する人なり。精神にも眼中にも大決心の充溢せる人なり。天の使命に感奮して技を上る人なり」。

チラーと稱する盲啞聾の少女ハーパート大學の入學試験に通過する程の學力を備へ居りたり。

フアーグソンは幼時に教育を受けたる事なし。父及び兄の談話に耳を聳てつゝ智識の門に入れりと。日記に曰く予は父に教を請ふを屑とせず。父と兄とが海外に滯在中常に公會問答を讀み、父の兄に教へつゝある、學科を自修せり。而して了解に苦む點は近隣の老嫗に質したり。故に予は父の教を待たずして得る處多し。

フアグソンは天文學者の高名なる人、水呑百姓の子。

アースキンは空前の大辯護士、彼は初步の訓練と古典的教養によりて世に乘せり。

モザル、六歳にて琴曲を作れり。

リー博士、天性魯鈍、希臘語拉丁語伯來語カルデー及びミリア語に通じ、遂に一世の碩學大言語學者。

ローエル水車場の工女等は簡易なる生活と高尚なる思索の龜鑑を天下に示せり、工女の一人はワツツの著「精神の改良」を仕事服の衣囊中に入れ他の工女をば日出より七時半に至る勞働時外に夜間獨逸語を學びしが遂に改良會なる團體を組織し一二の雜誌を刊行し彼等は頗る精神的に高尚にして雅醇、賤業を恥とせず、彼等の家庭は彼等の勤儉の美風に化せられて常に平和と正直との氣に満ちたり。此等の工女は大に其の希望を遂げ或は教師となり或は文章家となり或は美術家となり或は富豪の家に嫁せり

ルシー・ラルコム嬢は如何なる女子も必ず一讀せざるべからざる「新英國女子」の

著者也。嬢は十三四歳の頃ローウエルの紡績場の工女たりしが場主の許可を得て清きメリマツクの河に臨める窓に修理を加へ新聞紙の切抜を以て四方を貼りつめ詩歌の小図書館とせり。業を妨げずして之を耽讀暗誦したり。

ドクトル、クラークは赤貧裸足の愛蘭兒なり。書を購ふの力なく日々數里の所の某氏の藏書を借覽したり。

マルチノーは貧少女、常に一卷の書を懷にし枕頭にも一卷を備へ食事にも一卷を膝の上にし、踏臺を椅子として爐火を燈火としたり。

ガーフキールドは學資を得んが爲に木挽となり。ヒラム大學に講義を傍聽せん爲に大學の鐘撞掃除人足長となりたり。

獨學自成の大家人名。ベンジャミン。フランクリン。ワシントン。ワット。スチブンソン。セーキスピア。バイロン。ホイッチーア。ガリバルヂー。

リンコルン。グリーン。デッケンス。エヂソン。
 大學出身者。テニソン。ローエル。ホームス。エマーソン。ウエブスター。
 チャール。ビスマーク。ダーウイン。トーマス。フレーベル。ハミルトン。
 ニュートン。

ワットは蒸氣機關の發明家、曰く「予は他事を顧みる能はず唯予の一家をして餓死せしむるに忍びず」と。

一家の爲にも國民の爲にも滿腔の熱心を以てせざるべからず。

ワナー曰く「予の片言隻句にして青年學生の熱心を冷却せしむるものあらば（懷疑主義にて）予の罪や大也。彼は最高のものを撰べるなり。其の美しき信仰と其の熱望とは人生の光明、學問藝術教育に對する熱心と献身となかりせば世界は渾沌として凄愴の氣に満たん。

オルレアンの少女が佛國救護の神話を確信し神旗と神劍とを手にして起つや、佛國王も老巧なる大將軍も如何ともする能はざる佛國の士氣を振ひ磅礴たる熱心全軍を一貫し躍然として生動せり。其の熱心の前に當るものなく英軍其の名を聞いて震駭せり。優柔にして親ら三軍を統ぶる勇なく、蒙塵して日夜徒らに宸襟を惱したるチャールス七世もジャンダークの健氣なる振舞に鼓舞せられてライムに出陣するの大膽を敢てするに至り、ジャンダーク乃ち王に謁して我力あらん限りは誓つて此賊を掃蕩し國家を泰山の安きに居くべしと伏奏す。果して然り。

各種の發明繪畫彫刻の逸品傑作詩歌論文小説等すべて熱心の生む處。熱心は一種の精神的權能也。高級權能の一なり。常に五官の頤使に唯々たるものは吾人眞の熱心なるもの見るなし、熱心の本體は向上的なり。

熱心に遠慮を要せず、何の憚るべきことやある。世人が公等を目し熱心家と呼ぶの語氣に冷笑の調を帶ぶるも妨なし。或一事の爲すべき價值ありと信せば即ち世評の如

何に頓着なく滿腔の熱心を傾けて之に當るべし。最後に笑ふものは最も善く笑ふものなり。最も多く成功するものは薄志弱行の徒にあらず。

熱心は情意を強固ならしめ思想を生動せしめ可能的を現實的ならしむ。

熱したる鐵は鈍なりと雖も板上に孔を穿つことは銳利にして冷めたる鐵を以てするよりも深し。

サルビユー曰く「最良の手段は熱心によりて得らる。自ら語る所を自ら感ずる程の自信を以て聴者の心を動さば聴者は多くの缺點を看過すべし。特に學問を以て然りとす。刻苦勉勵に待つにあらずれば世界の有ゆる天才を網羅すとも何らの裨益を公等に與ふる可らざるべし。予は一章を學ぶに數年を費したりと。

或る僧正或時名優ガーリックに告て曰く「ガーリック君よ足下技を演ずれば看客皆其の演劇なるを忘る。然るに予は眞理を眞理として人を信せしむる能はざるは何ぞや」。彼答へて曰く「恐らく足下自ら信せずして眞理を教ふるならん。予の技を演ずる

や常に眞ならざるものをも自ら眞なりと信ず」と。

熱 誠

此世界は熱心家の爲に提供せられたる懸賞品也（ロバートソン）

世界史上に赫々たる大活動は總て熱心の功也。熱心なければ大事業遂げがたし。（エマソン）

成功は才能よりも熱心に因ること多きは經驗の明示する所なり。勝利者とは其の志す所に自己の心身を捧ぐる底の人なり。（バックストン）

熱心なる人は手段を發見す。若し發見すること能はずんば即ち之を創始す（チャニング）

心にもなき言語を弄して人心を動かし又は人心を收攬せんと望む勿れ。（ゲーテ）
閑人、唯行樂の爲に生き何等の眞面目なき人と接する時如何に其の語る所平凡にし

て無益なるよ。才能あり教育あり學識ありとも熱心なくんば事物の眞髓に透徹せず隔靴搔痒の感あり。(クラーク)

君が意氣も又衰へたる哉、君然らずと言はゞ君の事業に適するやを省みよ、斃れて後已むの熱心に代る可きものなし。(デッケンス)

「人熱せざれば無なり」とはモンテーンの唱道なり。戀の力が青年の眼に醜婦も天女の如く映せしむる如く、熱心は乾燥無味なる職業に一種の新らしき意味を添ふるものなり。戀の虜と爲れる男の感覺は鋭敏に觀察力は燃犀にして戀の目的物に於て他人の見る能はざる無數の徳と美とを見る如く滿腔の熱心熱する時は人は知覺力及び視覺力増進する事著し、故に他人の知らざる美と趣味とを勞苦缺乏辛苦の中にすぐ發見するものなり。

古來大革新大發見大發明大成業と曰ひ社會の趨勢を動かし一新生面を開きたるもの熱心の効果にあらざるなし。熱心とは高遠なる目的に對する熱烈なる確信なり。或種

の高尚なる事件に對する忘我的献身なり。一大目的を果さん爲の精神の凝聚なり。精神及智力的大活動の憧憬ある献身的努力なり。個人と國民との別なく斃れて後止の根を以て堅忍持久する生命なり氣力なり。

聖ポーロがアクツバ王を説くや、王は陽に大喝一聲彼を退けしも陰に憮然として我殆んどクリスチャンたらんとしたりと自白せり。王はポーロの熱心に動かされたるなり。

パリツシの白色焼物の藥の發明、コロンブスの新世界發見。彼は獄窓に呻吟し死に至るまで貧窮と侮辱との爲に苦めり。ハーヴェは血液の循環を唱道せし熱心家、ガリレオは天文學の熱心家なり。

聖子の天職を果す

如來の靈光を被り更生したる我は即ち聖子なり。聖子の天職聖子の責任を果さざる

べからず。如來は正義なり。吾人は聖子の義務を果し責任を盡すてふ自信力は吾人を
 して人間已上の勇氣は勃々として起さざるを得ず。

如來の光榮を顯すは信者の義務なり。如來の正義を擔ふ處の信仰には水火をも敢て
 辭せざるの勇氣は發するものなり。若し此の義務を果すべきを怠る時は却て其罪を宗
 教に及ぼし恥辱を會友に被らしむ。果斷の勇氣なければ怯懦の謗りは免る可からず。
 己を尅る勇氣なければ先づ自己の良心の呵責を受け亦他人の爲に排斥嫌忌せらる。

懶惰の爲に終身貴重の時間を浪費し茫々として路塵に汚され意は徒らに世の爲に翻
 弄せられ斯く茫々冥々の裡に日を卒へ年を積みたるもの、而して後に斯正義の光明の
 覺醒したる時は此浪費したる時間と精神の爲にいかに悔ゆるならん。

又世に處して自己の天職を果し義務を盡さざる輩は光明常に照せる世界に此の如
 き人物を容るべき餘地やある、此漢を活すべき處やある。活眼開け來りて斯世界を觀
 する時は方便土とて光明中に聖子の天職を果すべき菩薩修行の階級たる土なり。現

世界は即道德的意志を鍛鍊すべき國土なりとす。若し此の方便土に生存して其の掟たる六度萬行を以て自己を鍛鍊し本務を果し聖者の資格を養ふにあらざれば人生將た何の功かあらん。現世界は肉の幸福と僥倖の爲に其生を送る漢は方便の學校にて選擇の檢定に落第したるものなり。

正義の光によりて人生の眞理即自己本來の目的あることを自覺し來らば何なる艱難困苦も己を鍛鍊するの機とし歡迎す。自己の盡すべき本務を免れ當然の責任を避くるを却つて自得とし幸なりとし歡ぶ如きは肉の偷安を買ひ光榮を顯すべき本務を怠り、如來の唯一の賜たる光の時間を唯形の偷安を貪る爲に浪費する如きは如來の正義に背き我欲に欺かれて世の爲に貢獻するなく、放逸私有の爲に日暮を爲す如きは此の貴重なる恩賜をあだにす。自ら罪なしと斷するや。

眞心の満足

若し人未だ此の光明の眞義を識らず、闇の中に身の儉安を希望し肉の幸福を追求し
 て若し彼にして僥倖にも自己の求むる處悉く捉獲たりとせんか、或は闇の中に自ら
 暫く満足に感ぜられん、而して此貴ぶべき時間を唐らに放逸遊蕩の中に葬り已らんか
 彼未だ肉の煩惱の毒に昏醉せるほどは得意たるも、若し一旦正義の光明が醒め來る時
 はいかに彼は苦しまん。浪費したる我生命をいかに悔しからん。願くば一たび壯年に
 復りて正義に己を匡正せんものと。夫と反對に正義にして自己の天職を果すほど自
 己を満足せしむるなし。自己の責任をつくすが如き歡喜は無かるべし。殊に此の光に
 よりて人生の目的を解するものに於ては殊に然り。如來の正義の大氣中に生息せる自
 我なれば自我が自我の爲めに盡す處の行爲は正義なり。又正義は公平正大にして彼我
 なく自他の區別なく自己に善なるものは他人にも又善、己に受けて不満の事實は他人
 も亦不満なり。然るに正義は公明正大自他をへだてず。如來の我を我とするが故にな
 り。

公明正大平等の幸福は自我の満足なり。

正義の行爲は明るければ益々満足なり。不正なる行爲は夜明くるに隨て快樂を失ふ人生眞實の満足と快樂は正義の行により自己の天職を果し本務を遂ぐる處に於てあり勢至菩薩の大勢力は正義の觀念によりてなり。

人は勇氣充實するの原動力無ければ正義を實行すること能はず。又正義は勇氣を増進す。不正義の行爲は斯光に遇ふ時は忽ちに意氣喪失し如何に口實を設け表面を装ふとも自らの良心は疚し。

夫と反對に正義ほど人の勇氣を發揮するものなく、本務を果す爲には火水をも履むことを厭はず。

全く斯光が生命と化す時は百難を受くるも其の中に満足あり、いかなる苦境にも歡喜充滿せり。

聖源空は七十餘の高齡にて四國土佐の邊鄙の土地に遠流せらるゝも少しも憂色なく

曰く我年來都會の教化已でに年久し。邊土の士民に此念佛を勧めんことの希望年久し、年來の志願を果なんことは朝恩なりと。

光の反映

如來の心光を信じ彼心光より人心に發動する勇氣は世俗の名譽利養の爲に傾動せられず、生命困苦の爲に恐怖せず、眞聖なる如來の前に疚しからず何に世人の爲に謗らるゝも敢て意に介せず、世俗は世俗とし、情操名利等の爲に束縛せられず。

如來の光は實行する人の身に由つて實現す。其の三業に活動する一々光の實現ならざるなしと云ふ如きに至つては、其先づ接近せる人々を感化せしめ、而して普く人の模範となり、此に如來の威神光明が人の身に現はるる處一種言ふべからざるの威信あり自ら其威光に服従せしむ。

晋の遠法師の如き常に念佛三昧に入つて心々如來を離れず。時に太守、遠師に謁す

るに及びその威嚴自ら感服す。又唐の導師、京師に在つて専ら念佛を勸む。教化に預るもの數ふべからず。一在家の信者清淨潔齋して食肉を斷するもの甚だ多し。一の暴惡なる屠兒ありて導師は是賣肉の業を碍ぐと云ひて刀を以て導師を截らんと欲す。時に導師從容自若として指を指して西方に示す。時に佛身光明赫々として屠兒の身を照す。時に屠兒其の靈感を感じて竟に念佛に歸す。又導師の教化の盛なる金剛法師なるものありて之を嫉視し一の堂中に在て議論を試む。問答數番、時に導師高聲に叫びて曰く、若し導が説く所の法門に於て諸佛の冥慮に稱はゞ堂内の聖像悉く靈光を放ちたまへと。聲に應じて忽ちに堂内の佛菩薩の聖像が一時に光を放つと。靈的勇氣の熾なる知るべきのみ。

眞に光明を得たる人の前には高位貴權もなく、唯眞理の光あるのみ。不羈獨立。或る一老婆あり。信仰深し。神はすべての病氣を癒す不測の力を自己に與へられたりとの信仰力は世俗の警官俗吏の爲に數十度獄に投せらるゝも何なる罰も毫も怖れず自若

とし其罰を甘んじたり。若しかよわき一婦女に斯の如き勇氣を與ふるものは信力より生ずればなり。

意志の改革

若し人其の天稟柔弱の質にして貴人に對しては言語をさへ澁滯して畏縮して冷汗を流す如き怯懦夫と雖も、自ら此の勇氣缺乏の不徳なるを感じ至誠心に如來を信念して一に靈力の加はらんことを祈りて至心不斷なる時は勇氣勃々として昂り、尙沸然たる勇氣を以て一心を訓練する時は竟には意志金剛の如くに何なる貴人の前にも恐るゝなく亦百難の眼前に迫り來るにも泰然自若として驚動せざる、而して自己の進むべきに進み退くべきには退き、正義の光によりて進退其秩序を失はず、唯感情の爲に制せられて常を失ふ如き失態を演ずるなし。

眞の勇氣は常に外部の刺激に驚動せざるのみならず、内自己の弱點たる私慾の爲に

動かさるゝ事なし。

眞の勇氣の根本は斯意志を照す不斷光の缺くる爲なり。譬へば人日中外出は怖るゝなきも、闇夜の行路は何となく怖畏の念を生ずる如く、すべて経験なき時は將に成らんとすることも経験なき時は其の事に於て聞きが故に恐怖心生ず。例へば軍人の敵に對するに向ふ先は聞きが故に怖を生じ、又未熟の辯士が初めて演壇上に上るや自ら聞きが故に怖ぢて言語を澁滞する如き、是自己の意志の進まんと欲する處に一縷の光明なきが故なり。

退いて自己の私慾即ち煩惱に打ち克つを得る勇氣、煩惱の己に克つ事能はざるは己を照す光缺乏する故なり。若し自己返照の靈力不斷に照臨する時は私慾煩惱自から滅せん。意志の光なき勇、即ち無鐵砲の暴虎憑河の振舞は蠻勇、朦朧抵突の勇は闇の勇なり。かゝる勇氣にして自を過り他を誤らしめざるあらば僥倖のみ。恚る蠻勇は一たび光明に接し自己の野蠻なることを自覺する時は其勇氣は自ら消滅せん。されば眞の

勇氣ゆうきは此光このくわう明めいによりて發揮はつせらるるものとす。あゝ不斷光ふだんくわうは人を勇ゆうならしむ。教祖けうそ及び諸聖者しよせいしやが道德上だうとくじやうの勇ゆうに終局しゆうきよくまで健闘けんたうして大聖だいせいの光ひかりなる月桂冠げつけいかんを輝かがやかして光明裡くわうめいりに凱旋がいせんの旗はたを翻ひるがへして千古こかく赫赫ははたるは此光このひかりの勇ゆう者しやなればなり。

人間實力にんげんじつりよくの確信かくしんと成功せいこうの期待きたいと功名心こうめいしんと胸中の成算せいさんと運命うんめいの信仰しんかうとは勇氣ゆうきを振作しんさくし鼓舞こぶする要素えうそなり。若し此等これらの要素えうそが隊伍たいごを整ととのへて之これを率ひきゆる熱心ねっしんを以もつてせば、吾人ごじんの眼前咫尺がんぜんしやくしの間に翼あひだつばさを張はれる恐怖りうふは忽たちまち其影そのかげを没はつせん。

不斷光と沈着心

不斷光ふだんくわうは人の意志いしに光ひかりと熱ねつとを加くはへて常恒じやうごうに秩序ちつじよ正ただしく活動くわつどうせしむと云いはゞ、人或ひとあるひは謂いはん、不斷光ふだんくわうの活動くわつどうは熱誠ねっせい滿腔まんかう烈火れつゐの如ごとくなるのみと、そは不斷光ふだんくわうの一面いめんを文字もじの上うへに解かいしたるのみ。烈火れつゐの如ごとき感情かんじやうの熱ねつは正義せいぎに向むかつて奮起ふんきせざるなし。然しかれどもそは一面いめんにして斯光このひかりが人の心靈しんれいに在あつて烈火れつゐの如ごとく熱誠ねっせいの燃もゆるありて不斷ふだんの活動くわつどうの動

機とならざるなし。他の一方には不斷は沈着にして、平和靜溫の態度を持して、常恒不斷に人の意志の奥室に靈光照せば、八風の爲に煽動せられざる心燈は平和なり靜穩なり、沈着なり。斯光が心の奥室に消えざるあらば不意に危急存亡の大事に遇ふとも過を生ずることなし。自己の進退舉動誤ることなく行くべき方に行き爲すべき事を爲し、事無謀に出づることなく、心亂れず亦風前の燈の如くならず、操縱其の宜しきを得べし。

斯の靜穩沈着は殊に壯年の容易ならざる處、孔子が壯者之を戒むるに闘にありと。壯者は沈着心に缺くればなり。孤燈沈々不斷に絶ゆるあらば一少事にも忽ちに狼狽し匆忙浮沈常なく喜怒哀樂常に八風の爲に動搖せらる。

怯懦と眞勇

精神に不斷光なく聊かの難に對しても之を反撥するの勇氣なく、意氣屈伏し奴隸の

如くに己を重んずるの勇氣なく、斯かる意氣の柔弱怯懦なるものは德行自尊心もなく正義の觀念もなし。

柔軟怯懦の輩あり恩もなき義もなき人に對して其の身を屈從すること猶し奴隸の如し。彼全く其德行の何たるを知らず。自尊心てふ事を意識せず。唯權威ある身分ある人の前には舌澁滞して全く言ふ事能はず。斯る柔弱怯懦の輩も一心勇猛に念佛して發得する時は勇氣滾々として湧き意志金剛の如く、如何なる境遇に臨みても怖るゝことなく、或は狂狷者ありて白刃を以て向ふにも彼は自若從容として稱名すること常の如し。表溫容を以て内勇氣沈着なる彼には狷者も刃を捨てゝ自己の過てるを謝す。是不斷光の眞勇は意志金剛の如くになれば鐵の白刃恐るゝに足らざるなり。

義を重んずること金の如く身を鴻毛の如くす。此眞勇あるものは精神に不斷光を得たるものゝ能くする處、如何となれば縱令此肉體は切斷せらるゝとも大我の中の心靈は截つこと能はざる事を自得すればなり。

山中鹿之助は鎗の名人なり。氏曰く一番鎗を使ふの秘術は何の我こそと云ふ我慢にはなし。亦南無八幡宮との神號には未だ我命惜しきが故に此身を助けとの弱みあり刀も切る事能はざる唯一心のみとなりて此身あるを忘れ、ナムアミダ佛と云ふ一心のみありて一番鎗をつくことを得べしと。光明名號の一心は不斷、即ち斷つこと能はず切つて切らるべき身は切らば切れよ、射ば射よ。又も斷つこと能はず火も焼くこと能はざる此心靈の生命は不斷光なりてふ金剛の一心は是眞の勇なり。此眞勇の不斷光は平生競争場裏に於ても最も不斷に應用すべきことなり。眞の光明的の勇なきものは酒色の奴隸となり金錢の奴隸名譽の奴隸となりて遂に闇黒的に埋没するものは哀むべし。

不屈 不撓

宗教によりて身心を訓練し品性を高からしむる一大原因は光明の人となるによる。

正義に我如來の正義なる聖旨を實現するに外ならず。全き信仰を得る時は若し我身に於て正義を缺く時は如來の徳を汚す事を恐るればなり。如來の正義は自己の正命なり。或る難に遭遇して忽ちに意志を挫かれ、又は他人の爲に意志を左右せられ感情の爲に志操を變ずる如きは唯人間の意志にして宗教の神の正義の此の身に行ふべきなればなり。若し此身心は如來の正義を承たる我なるを自信する時は勇敢にして正義を堅く保持して己の本志を飽くまで決行して心靈の命するまゝに果斷決行して毫も憚ることなきに至る。又儒者は一方の外界の境遇に抵抗するの勇なきと他の一面には自己の弱點偷安逸樂肉の幸福を追求するに汲々たるものには正義の光明は影だにもなく、不斷滿々の勇氣を奮起し萬難に當るべき果斷の決心なく、神に背き人の前には却つて口實を設け遁辭を作り自己の遊惰を覆ひ隠し爲めに自信の正義の斯身に伏在する本性を發揮する事能はず、終身偷安の奴隸とし逸樂の餓鬼と化して身を沈む。

若し之に反し如來の神聖なる命令は不斷に我心靈に承はり正義の我なるを自信する

前まへには徒いたづらに世間體せけんていを作り口實こうじつを設まうけて怯懦きやうだ我われを賛たすくる如ごとき愚ぐを演えんぜす。正々堂々せいけいだうだう、正義せいぎの幢はたを立て、如來光にょらいくわうの前まへには我われなし人ひとなしてふ精神せいしんには體裁ていさいを裝よそふの偽面ぎめんを要えうせず。内良心うちりやうしんの呵責かやくなく內心ないしんに正義せいぎの光赫ひかりかく々たる所ところには後悔こうくわい煩悶はんもんの情じやうなく亦狼狽またらうはいして爲なす處ところを失うしなふ如ごとき闇澹あんたんたる光景くわうけい見るなし、

光 な き 家

赫々かくくたる不斷ふだんの光ひかりなき人ひとには眞しんの勇氣ゆうきなく神かみなく唯人たひひとの前まへに對たいする口實こうじつを設まうけて自己この隣人りんじんに對たいする面談めんだんを爲なすすら遁のがれんとす。斯かる遁辭とんじ口實こうじつは神かみの光ひかりなき處ところにのみ行おこなはるべし。是これ自ら神かみの令おほせなる良心りやうしんに反はんし自己じこの勇氣ゆうきを喪失そうしつせしめ、遂つひには病的びやうてきの致命ちめい傷しょうに陥おちり自ら進みづかむべきにも道みちを失うしなふ、不斷ふだんの活氣くわつきは失うしなはれ前途ぜんと闇澹あんたんとして、口實こうじつ遁辭とんじの惡習慣あくしふくわんにして熟致じやくきせられんか、意志活氣いしくわつきを失うしなふ勇氣ゆうきを失うしなふのみならず、人ひとの信用しんようを失うしなふ交誼かうぎを害そこひ道德上だうとくじやうの品性ひんせいを落おとし常つねに面おもてに牆かきをする如ごとき陰かげの人ひとの如ごとくになるべし。

斯の不斷なる正義の光なき家には、神の光なき處、不斷の定規なく豹變常なく進退節度なきに至らん。あゝ闇なる哉。

不斷光裡の健闘

人世は吾人が菩薩の使命を果たすべき場裡なり。吾人が此世界には吾人を魔境に誘惑すべき機會列なり、自己の内心には偷安快樂を追求する煩惱潜伏し、吾人は優柔不斷の意志たらば逆も此闘諍に勝利の望なきが如し。然れども聖なる不斷光正義の光が自己の勇氣の勃々と實現し來るがありて始めて健闘す。如何なる場合にも節操の堅固なる義俠堅忍正義は是如來の正義が吾人の胸中に湧出せる觀念にして、口實を設けて遁辭を以て己が義務を遁れ責任を避けんとする如きは寔に是如來の聖徳を汚す無情漢にして自ら信者を以て自任しながら正義に背き節を變じ約を破りて愧るの色なき……

惡魔は人の弱點なる虛榮心高慢心を利用して其の胸中に潜みて、其の人の精神の内徳を失はせん爲に、成るべく外にのみ眼も耳も向かはしめて。他人の華美なる服を見れば忽ちに我も欲しいと云ふ心を惹起させ、而して少しも自分の分を顧みんことは思はせぬ様にす。若し全く己に資力ある者省ることあらば返つて己を修め完き資力を養はんぞす。それでは惡魔の目算がちがふ。故に人々胸のうちに潜みて己を省る方の心を覆ひ張りて只名譽虛榮に全力を注がしむ。惡魔に魅せられる鈍物は有頂天となり家をも顧みず家族をも慮ばからず。只名譽と虛榮の惡魔の唆す處に隨て盲進す憐むべし。彼は竟に惡魔の膚となりてしまつた。(以下斷篇)

自己に依頼せよ

獨立自營の精神旺盛の人は他に依頼せず、只だ自己を恃み自己の爲めに活動す。

日常生活に於て他の同情を受けんとするは是れ依頼心内に存すればなり。而して危険に瀕する場合に平生親交と信じたる人も一朝事あるに際し冷淡なるは社會的生活

上より已むを得ざるの現象にして全く不幸を救ふ餘力なければなり。更に或意味に於ては人をして獨立自營の精神を發揮せしむべき天の默示なりと見て可なり。

人情の輕薄なるを嘆々するなかれ。是れ畢竟自己の獨立心甚だ薄弱なるを反證するなり。他の輕薄なると將た親切なるとは自己に於て獨立自營の精神堅きこと鐵の如くならば何ぞ他の自己に對して冷淡なるを憂へんや。

時間の利用

チエスターフィールドも曰く時間の利用を知らざるものは愚者の頂上にして賢愚の分岐點は唯時間の利用の如何に存するのみと。いかなる不平憂鬱にも打勝ちて健全に心を快活ならしめよ。自己の天與を發揮せよ。何れの企畫なく活動なく發展なく過去を失望し將來を杞憂し精力を空しく費す如きは明快なる頭腦も浮雲に捨てられ自身の處する處を知らず昏亂に陥り陰暗朦々として咫尺を辨せざるに至るべし。

時間の利用につきて一定の規律なく秩序なくんば妄想空想に耽り將來の希望なく現

在の趣味なく過去に對する精確なる回想なきに至る。

時間の尊重觀念なくんば新なる事業を計畫すべき勇氣なく快樂なく蕭條たる沙漠に置かるゝ感を抱き元氣なし。

獨立して事業の經營に當り絶大の苦心を用ひて幾多の事情の下に立つも巧みに時間を利用する人は殆んど時間の進行を覺へざるものなり。而して物我無二に時間を利用せば自ら快活なり。

苦をさけ樂を求むるは人情なれど自己の業務に誠實忠直熱心に奮闘して萬事を處決せんには快々として業務に趣味を感じ一意専念業に當らば物我無二なり。いかに快ひぞや。

人安逸にして爲すなきを快樂幸福と想像するは非なり。彼等は歡樂に飽き無聊に荒み奢侈に飽き物に興味なく活くるに忍びざるに至り逸樂に慣れ快樂の精神を支持する能はず。活動英氣なく天下に心を満足せしむるものなきに至る。

愚者と怠惰漢とは精神昏亂し秩序なく統一を缺き頭腦陰鬱なり。